

会 議 録

1 会議名

令和6年度第2回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議の進め方について（公開）

3 開催日時

令和6年6月28日（金）午後6時30分から午後8時15分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、横田正美（副会長）、笠原裕幸、京谷奈緒美、佐藤和幸、佐藤幸太郎、白滝 了、田村 隆、中原桂一、番場 淳子（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶

【近藤副所長】

前回欠席の京谷委員と佐藤幸太郎委員から、自己紹介をしていただきたい。

- ・各委員による自己紹介

【坪田会長】

- ・会議録の確認：笠原裕幸委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的審議の進め方について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・参考資料「第4期谷浜・桑取区地域協議会 取組概要」に基づき説明
地域協議会の活動イメージを深めていただければと思う。

【坪田会長】

概要を見て、補足説明や意見がある方は述べていただきたい。

委員一同「なし」

事務局へ説明の続きを求める。

【丸山主任】

- ・資料No.1 「自主的審議の進め方について」

資料No.2 「各地域協議会で現在審議中の自主的審議事項テーマ一覧（R6.3.28現在）」

資料「上越市地域独自の予算事業の概要（抜粋版）」に基づき説明

【坪田会長】

事務局の説明に対し、質問や意見はあるか。

【白滝委員】

参考資料「6自主的審議事項 ①伝統行事、史跡、文化の継承について（以下、自主的審議事項①）」は、2月19日に審議が終了しているということか。結果は何か出ていないのか。「②来訪者を受け入れるための地域づくりについて（以下、自主的審議事項②）」の審議継続中はどのような状態なのか教えていただきたい。

【坪田会長】

「6自主的審議事項」を見ていただくとわかるが、第4期は2つの部会に分かれて協議をしていた。各部で部会長を決め審議をしたが、残念ながらこの5期のメンバーに、部会長が残っていないので、なかなかその説明も難しいものがあると思っている。2つの自主的審議事項については、審議を行ったが、未解決、未決定といった感じが正直な話である。地域協議会で何回も審議したが、なかなか難しいものがあった。

自主的審議事項①は進めようと試みた。この谷浜・桑取区にはたくさんの行事があり、オーマラ等の行事について地域内外からも参加を募ってやれば地域活性化につながるのではないかと考えた。そこで地域協議会委員が行事をやっている団体と意見交換を実施

したが、団体から「地域外からの参加者、来訪者が多く来ると、なかなか地域で対応できない」という話だった。それで地域協議会として具体的な策を進められないまま、意見交換で終わったところである。

自主的審議事項②は、谷浜、桑取に訪れた人は、どこに、何を目的に来たのか、そして、訪れてみてもっと知りたいことはないか、アンケート調査をするというもの。アンケート用紙は作成したが、それを具体的にどう実施するかについて、あと一步のところまで5期の委員の募集に入ったので、そこで未解決といった感じである。

【白滝委員】

この二つとも、審議事項として協議を続けるか議論したかと思うが、今お聞きした経過のように途中で何らかの問題が発生して話が途切れてしまったのであれば、原因と内容をきっちり把握して、次回に結びつけないとまた同じことが繰り返されてしまうと思う。

今期の課題として継続するのもいいが、もう少し詰めていかないと、我々委員は何をしたらいいかが見えてこないのではないかと。

【坪田会長】

4期に審議した内容を取り入れてやるのか、1度白紙にして5期のこの12人のメンバーで、新たな自主的審議事項を決めてやるのか皆さんのご意見等聞きながら進めていきたい。1度白紙にすることは、今まで4期での審議内容が活かされず「これまで何をやってきたのか」という気持ちになる4期の委員もいるかもしれない。どちらの方向でいけばいいのか正直なところ困惑している。

4期の方がいろいろと駆使して考えていただいたのは「地域づくり、地域の活性化、何とかこの谷浜、桑取を頑張ってやっていこう」という趣旨で、今期の協議会の目的と一緒にある。

ほかに意見はあるか。

【京谷委員】

自主的審議事項②だが、このアンケートの目的は谷浜・桑取区を知ってもらうためなのか、また遊びに来てもらうためなのか、それとも移住をするためなのか。その移住者が子供世代なのか、それとも年配の人なのか…何を目的にしたアンケートなのかを知りたい。

もう1点は、アンケートは、紙か、それともSNSや、ネットを利用するのか。

【坪田会長】

私の知っている範囲でお答えさせていただく。

アンケートは「谷浜地域づくり協議会が作成したマップ」の置いてあるところへ設置し、谷浜・桑取のどこに、何を目的に来ているのか探る。設問には、谷浜・桑取区の知っているスポット、移住の希望があるのかなどを盛り込み、そのアンケート結果を集約して、谷浜・桑取区の地域活性化の方向づけをするというところだが、そこに至らないで終わっているのが事実である。また、確かに、今はペーパーよりも、SNSの時代である。そういった意見は重要で、自主的審議事項②を継続していくうえで、方向性を変えてやっていくとか、やり方はいろいろあると思う。

【京谷委員】

アンケート実施について協議しているとは知らなかったので、頑張っていると思った。これまで全く地域協議会のこのような動きは分からなかった。

【坪田会長】

ほかにあるか。

【田村委員】

第4期がそういう終わり方だったので、私も継続して5期に立候補した。4期で話し合ってきたことを引き続き5期目もやってはどうかというのが私の思いである。

ただ、今回お集まりの皆さんの中で、やっても仕方がないということであれば、断念せざるをえないということになるが、大きな目標は、この地区を何とかにぎやかにしたいということである。例えば、それが移住や、遊びに来ることでもいいと思う。そういうことによって、にぎやかになってくれればいいと思う。

自分は移住者の視点で考えたことがないので、谷浜・桑取区に興味を持って移住しようと思う人の困りごとに対して、地域住民で役に立てることはないのか考えてみたい思いはある。

【京谷委員】

私は二次元コードを読み込んでアンケートをしたほうが気軽だと思う。

私が15年前に、ここに来ようと思ったきっかけは、子育てだ。海があって、山があって、それほど田舎ではない、上越市街のように中途半端な田舎ではなくて、徹底的な田舎なので、暮らすのであれば私はそっちのほうが面白いと思い、移住した。住むところを探すことには情報が少なく、苦労した。

【坪田会長】

体験したからこそその貴重な意見で、一步前進したと思う。住みたくても情報がなければ、わからない部分がたくさんあるので、それがまさに、この自主的審議事項の大事な部分だと思う。地域活性化ということになれば、人口も増やさなければいけない、学校もなければいけない。いろいろなものを網羅していないと、せっかく移住してきても何にもならないということになる。この谷浜・桑取区の自主的審議事項に、そのような活性化の部分を盛り込み、皆さんに意見を聞きながら進めていければと思っている。

【横田副会長】

前期からの継続委員として自主的審議事項①についてもう少し詳しくお話したい。

皆さんも大体わかると思うが、この谷浜、桑取地区は、史跡や文化というところ幅広くなるが、いろいろな伝統行事がある。住んでいる人が、どちらかというところ、桑取の人は谷浜のことがわからない、谷浜の人は桑取の行事がわからないということがある。そのため、行事を運営している団体に現在の状況も踏まえていろいろと取材させてもらった。

結果としては、どうにか現在はうまく維持している、いろいろと予算的などころで厳しい問題はあるが、逆に下手に宣伝をして、何百人も来ても扱いに困るし、「特にその辺の支援は今のところ要らない」という話であった。そういうことで、自主的審議事項①伝統行事は一区切りとし、終了とした。

では、他にアプローチや何か活動することはなかったのかとも思うが、前回そこまでは話がいかなかった。

【坪田会長】

今、第4期の経験を、田村委員、横田副会長から話していただいた。自主的審議とはどういうものか理解が深まったかと思う。

ほかに何かあるか。

【佐藤幸太郎委員】

自主的審議事項という言葉は初めて知った。4期の方々の苦労や苦悩が出ている。道半ばで、バトンタッチしなければいけなかったのが、5期の私たちが、この仕事をどうとらえてつなげていくのかが、一つの課題ではないかと思っている。

この桑取谷の歴史を学んで次世代につなげていくといったことに、関心を持っている人はいると思う。私は関心がある。

7月3日から新しいお札が出る。渋沢栄一が1万円札になる。渋沢栄一は、息子では

なく、孫の渋沢敬三を後継者にした。この人は、民俗学者であり、大蔵大臣や日銀の総裁もやったが、昭和10年に、桑取に来ている。横畑で小正月行事の「馬」に参加している。16ミリの映写機を持ってきていて、それが映像に残っている。今度、おじいさんが1万円札になるので、渋沢敬三が、なぜ桑取谷に注目して来たのか、改めて私たちが振り返ってみるのもいいのではないか。そういったことを探りながら、改めて桑取谷の文化というものを考えながら、深めて、交流していければということが一つある。

もう一つは、京谷委員がおっしゃった、移住する人等をどう増やしていくのか、つなげていくのかだと思う。空き家が随分ある。空き家を見ていると、持ち主の方はそれぞれの思いがあるのだろうが、すぐ壊す人もいるが、なかなか壊さずに残っていて、5年、10年は持つかもしれないが、結局壊しているというケースがある。それを見ると、残念で悲しいという思いがある。もちろん、持ち主の思いは第一だが、空き家によその人々たちを呼び込む工夫ができないかと思う。もったいない感じがする。

【坪田会長】

同様の意見でもいいので、何かあるか。

【佐藤和幸委員】

私は、この地域に住んでいながら、なかなか地域のこと知らないと思い、子育てが終わった50歳過ぎあたりから、実際に自分で「馬」に参加したり、「オーマラ」に参加したりと、地域のことを少し知らなければいけないと思い参加している。それを外に向かって発信すると、人が集まりすぎて対応できないというジレンマがあると思う。そういうところで、何か協議会として手助けができないかと思う。大勢集まって、にぎやかにしてもらうのは非常にいいことだが、にぎやかにされすぎると困る。どうも納得できないところがあるので、その部分について何か手助けができないかというのが一つ。

それと、来訪者の受け入れについてだが、私の町内会の移住者は空き家になったあと間もなく移住されたので、それほど手を入れなくても住める状態であった。ただし、そういう人は、定年を迎えて終の棲家といった感覚で移住されているので、なかなか地域活性化はできない。子育て世代の人たちから移住をしてもらわないと、やはり活性化しない。先ほど京谷委員が言ったように、移住者の住むところの支援は何かできないかと考えている。

【京谷委員】

私がここに住みたいと思ったのは、「馬」や「オーマラ」等を見たからである。そうい

うものを見に行く人は、もともと民俗学に興味がある人たちで、そういう伝統行事が面白い、雪深くても暮らしていけると思う人たちである。行事を見学し、その時に「空き家あります」といったチラシ・SNS等を目にしたら、すごく心が揺れるのではないかな。

最近ではペットとして犬を飼っている人が多いので、たにはま公園のドッグランを大きく紹介して「子供と犬と一緒に暮らせるまち」としてPRすれば、人口が多い都会から移住者を呼べるのではと考えたこともある。

【坪田会長】

この協議会で議論を交わしながら、そういう移住者PRの方向づけを市に提案する（意見書を出す）方法もあるし、SNS広告等実際に取り組むことも一つの自主的審議事項の成果になると思う。これは谷浜・桑取の活性化、人口を増やすための一つの策で、手法や方法は皆で決定しながら、進められれば良いと思う。

たにはま公園も当初は立派なものができるということで、いろいろ夢を描いて、地域が活性化すればいいなと思っていたが、方向が変わってドッグランの整備で終わってしまった。たにはま公園を整備する際に思い描いた原点に戻ってもいいと考えている。

【田村委員】

公園の構想のときに、私は、「お年寄りのためのマンションを建設したらどうか」と言ったことがある。ケヤキが一本立っているが、そこへ立つと、妙高や西を向けば、能登半島、佐渡、弥彦が全部見えるので、すごく眺めがいいと思っている。

今、皆さんの意見を聞いて、あそこに何かつくればいいのではないかなと思ったが、過去にそんなことを思ったことがあったので、参考までに。

【坪田会長】

それに関連して、小中学校がなくなるのであれば、たにはま公園に小中一貫校や特別養護老人ホームのようなものができればいいという話も聞いたことがある。

今、たにはま公園が、一番皆さんの目の付けどころなのではないか。災害や地震のときの避難所として十分対応しているし、まだ土地があるので、いろいろできる可能性が残っている。今後協議会でも話を深めてみたい。

ほかに意見はあるか。

【白滝委員】

自主的審議事項②ではアンケートを実施して、分析して活かすことが大事で、是非今期、継承してやっていきたいと思った。

【坪田会長】

ほかに意見はあるか。

【中原委員】

自主的審議事項①について、我々が先走ってPRしてしまうと良くない。小正月の行事は、我々地域協議会委員もよくわからない部分がたくさんあるので、実際に行事を運営している当事者とよく話し合わないといけないと思う。例えば、たくさん人を収容できる会場で行事をやればいいのかとアイデアが出るが、それでは、伝統文化が違う方向へ行ってしまいうような気がするので、やはり実際に行事を運営している当事者の話を聞いて、それで何かお手伝いできないかということを経験協議会で考えるほうが良いのではないかと。

話を折るようで申し訳ないが、まずは、私たちがよく知らないといけない。行事を実際にやっている人たちの考えと、我々の考えが違っていると良くないということを経験協議会に伝えていただいた。

【坪田会長】

おっしゃるとおりである。我々地域協議会ですべて決めるわけではないし、それは不可能である。谷浜、桑取には、地域の団体が大小60以上ある。そういった方々と逐次話をしたり、意見交換をしたりしながら地域を見つめて、活性化のためにできることを考えていきたい。

他に意見はあるか。

【横田副会長】

今日、いろいろな話を聞いていると、移住について皆さん興味やテーマに考えておられる方が多い。移住推進に取り組むNPOもあり、話を聞いてみたいとも思う。今後自主的審議事項に「移住」に関するテーマを加えることも必要になるかもしれないと思った。

【坪田会長】

農協等でも、地域で情報を出し合って婚活の斡旋をしたらいいのではないかとこの話もあるし、子育てから始まって、若い世代を応援するような取組をしてはどうかという意見もあった。だから、審議するテーマはたくさんあると思う。

今後皆さんと方向性を決め、煮詰めながら、地域協議会の役割を果たしていけるようにしたい。方法論や、それに対しての目的など、いろいろ決めることがたくさんあるろう

かと思う。皆さんの忌憚のない意見をお聞きしながら、より良いものに進めていければありがたい。

ほかに意見を求めるがなし。

その他について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・第3回協議会について説明

【坪田会長】

- ・次回協議会：8月5日（月）午後6時30分から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。